

第29回土木史研究発表会

1. 主催：土木学会（担当：土木史研究委員会 <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>）
2. 期 日：【研究発表会】2009年7月4日（土）・5日（日） 【見学会】2009年7月3日（金）
3. 会 場：北海道教育大学函館校
交通案内：函館市電・五稜郭電停から徒歩約15分
函館バス・函館駅前2番乗り場より「昭和ターミナル行（田家町、赤川通経由、系統番号4番）」に乗車。「教育大前」にて下車
函館バス・函館駅前6番乗り場より「桐花通中央・昭和営業所方面行（白鳥町、高台通経由（系統番号27ループ10）」に乗車
4. 参加費：会員、非会員：2,000円
学生会員：1,000円
論文集および講演集販売：合冊（論文集Vol.28+講演集Vol.29）：6,000円
論文集のみ：2,000円 講演集のみ：4,500円
※当日会場にて申し受けます。
5. 懇親会：1) 日 時：2009年7月4日（土）19:00～20:30
2) 会 場：BAYはこだて「みなとの森」（函館市豊川町1-1-5）
3) 参加費：4,000円
4) 参加方法：当日会場にてお申し込み下さい。
6. 見学会：1) 日 時：2009年7月3日（金）14:30～20:00 テーマ：「函館山周辺の近代土木遺産と函館の夜景」
【集合】函館空港 14:30（空港到着ロビー）、JR函館駅 14:50（駅コンコース待ちあいコーナー）
→ ① 函館港改良施設・船入潤防波堤（函館開発建設部） → ② 元町配水場（函館市水道局） →
→ ③ 函館山要塞跡（函館市土木部の説明） → ④ 函館山 → 【解散】
2) 募集人数：先着順の受付とさせていただきます、定員は40名。参加人員が20名に満たない場合は中止
3) 参加費：2800円
4) 申込み先：JR北海道 法人旅行札幌支店「第29回土木史研究発表会」係
TEL:011-223-5740 FAX:011-280-8386 E-mail:hjr-taikai@jrhokkaido.co.jp
7. 宿泊案内：土木史研究委員会ホームページ（<http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>）を参照ください。

8. プログラム :

◆7月4日(土)

時間	第1会場(第2講義室)	第2会場(第5講義室)
10:00	開会挨拶 土木史研究委員会委員長 篠原 修	
10:20	【港湾, 景観】	【交通】
	1 林千秋の欧米港湾視察と北海道の港湾にかける思い -札幌船渠論の提唱- 戸巻昭三((株)クマシロシステム設計)・神代方雅・田中敦幸・長内戦治・田中実	9 東京の環状街路計画の変遷に関する史的研究 那須広孝(元 日本大学)・大沢昌玄・岸井隆幸
	2 品川台場計画について -新発見の絵図より- 神吉和夫(神戸大学)・肥留間博	10 秋葉古道の成立過程と果たしてきた役割などの研究 中根洋治(昭和コンクリート工業(株))・奥田昌男・可見幸彦・早川清
	3 動物をめぐる景観について 藤尾直史(東京大学)	11 福知山線全通後の輸送改善に関する長期的分析 波床正敏(大阪産業大学)
	4 明治・大正期の納涼床営業者の鴨川官有地利用に関する研究 -先斗町三条・四条間を対象として- 林倫子(京都大学)・神邊和貴子・出村嘉史・川崎雅史	12 近代化土木遺産の移設保存 -平木橋 村瀬佐太美((財)海洋架橋・橋梁調査会)
12:00		
14:00	【河川 I】	【橋梁 I, ダム】
	5 実務面から見た明治期の常願寺川改修工事 貴堂巖((株)ケイエステック)	13 近代土木遺産としての余部鉄橋の保存と活用の取り組み 福永悦男(兵庫県土整備部)・柳澤友樹・藤原博文・川崎雅史・岡田昌彰・
	6 明治時代中期の天竜川・三峰川の治水関係史料 山浦直人(長野県建設部)・小西純一	14 我が国における江戸期から明治期への釣橋の展開(その7) -江戸期の古典的釣橋から明治期の鉄線橋への変遷- 山根巖
	7 河道特性に着目した札幌の中心市街地形成過程に関する一考察 岩田圭佑(熊本大学)・田中尚人	15 井川刎橋の歴史とその構造解析 武部健一(道路文化研究所)・松村博
	8 御所用水の再建 -京都市街の防火 小野芳朗(京都工芸繊維大学)	16 建設記録映画の分析による戦後日本の発電用コンクリートダム建設技術の発展 馬淵浩一(愛知文教大学)・今尚之
15:40		
16:00	開港150年記念「函館のまちづくりの歴史と未来」講演会	
18:00		

◆7月5日(日)

時間	第1会場(第2講義室)	第2会場(第5講義室)
9:00	【河川Ⅱ】	【橋梁Ⅱ】
	<p>17 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(古墳時代までの土木技術と土地開発)</p> <p>松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p>	<p>28 カンボジア12～13世紀建造の王道石橋群 —測量データ解析を中心として</p> <p>伊東孝(日本大学)・片桐正夫・重枝豊・大山亜紀子・加藤久美子・</p>
	<p>18 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(律令期の土木技術の普及)</p> <p>松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p>	<p>29 アンコールの石橋の構造的安定性について</p> <p>松村博((株)ニュージェック)</p>
	<p>19 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(藩政期の河道変遷)</p> <p>松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p>	<p>30 隅田川震災復興橋梁吾妻橋の設計の考え方</p> <p>白井芳樹((株)オオハ)</p>
10:40	<p>20 通潤用水の維持管理における利用者の役割に関する研究</p> <p>古賀由美子(熊本大学)・田中尚人・本田泰寛</p>	<p>31 ルイ・アレル・ドゥ・ラ・ノエによる鉄道高架橋群の設計に関する考察</p> <p>本田泰寛(熊本大学)・小林一郎・星野裕司</p>
11:00	【河川Ⅲ、遺産】	【修復・復元、測量、地域・都市Ⅰ】
	<p>21 庄川用水の合口化 (A Study on Intake Unification of the Shougawa Irrigation Channels)</p> <p>安達實((株)アステック)・門田信一・山崎廣志・日野虎彦・北浦勝・池本敏和</p>	<p>32 城郭石垣における石材間の摩擦特性と個別要素法解析によるシミュレーション</p> <p>山本浩之(ハザマ)</p>
	<p>22 系譜評価を主眼とした栃木県那須烏山市の近代化遺産調査</p> <p>加藤祐伴(足利工業大学)・福島二郎</p>	<p>33 高松城天守台解体時の力学調査と保全工法</p> <p>金岡正信(大阪産業大学)・西田一彦・大嶋和則・玉野富雄・北園和憲・山中稔・白石建</p>
	<p>23 近世以前の土木遺産から見た、都道府県ごとの地域的特徴</p> <p>馬場俊介(岡山大学)・樋口輝久・丹羽野真也・山元亮</p>	<p>34 地籍測量史の研究(その2) —地籍制度の変遷と地籍図の精度の関係について—</p> <p>築瀬範彦(足利工業大学)</p>
	<p>24 戦争遺跡高知掩体壕の保存に関する研究</p> <p>山崎利文(高知工業高等専門学校)・西岡建雄・山岡勇基・三木まや</p>	<p>35 我が国の産業遺産活用についての一考察 —(社)土木学会誌「CEレポート」に掲載された記事のまとめ—</p> <p>西尾敏和(群馬県立高崎工業高等学校)</p>
12:40		
14:00	【土木史一般】	【地域・都市Ⅱ】
	<p>25 土木遺産の見学会としての活用とその教育的効果</p> <p>原口征人((社)北海道開発技術センター)・今尚之・進藤義郎・董澤憲吉・小山茂・石川成昭</p>	<p>36 西川緑道公園の誕生 —岡山市内用水の景観成立—</p> <p>竹内晋平(岡山大学)・小野芳朗</p>
	<p>26 近代産業施設としての秩父鉾山の特徴分析と映像アーカイブス化</p> <p>片山大輔(埼玉大学)・深堀清隆</p>	<p>37 舟運都市ヴェネツィアの近代化に関する研究 —19世紀から20世紀初頭を中心に—</p> <p>樋渡彩(法政大学)</p>
	<p>27 旧北海道庁による技術協議会と北海道における技術者ネットワーク形成の萌芽</p> <p>今尚之(北海道教育大学)・原口征人・進藤義郎</p>	<p>38 1780年代のル・アーヴル港拡張計画について</p> <p>根岸美幸</p>
15:15		
15:30	総括および閉会挨拶 土木史研究編集小委員会委員長 小林 一郎	